

令和4年度 実務実習教科担当教員会議 議事録

1. 開催日時：令和5年3月18日（土）10:00～11:50

2. 開催様式：オンライン会議（Zoomを使用）

3. 出席者：237名

4. 本会議

（1）開会の挨拶 北陸大学 石川和宏

（2）「第107回 薬剤師国家試験問題検討委員会報告」（配付資料）

報告者 東北医科薬科大学薬学部 小嶋文良 先生

（3）特別講演「薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂における薬学臨床教育が新たに目指すところとは」（配付資料なし）

演者 名古屋市立大学大学院薬学研究科 鈴木 匡 先生

（4）次回開催案内・閉会挨拶 北陸大学 石川和宏

5. 会議報告

（1）開会の挨拶

本年度の委員長である石川和宏（北陸大学）より開会の挨拶にて、昨年度同様本年度も新型コロナウイルス感染症に対する配慮から対面形式が時期尚早と判断し、Zoomによる薬学臨床系教員連絡会議とのオンライン共催に至ったことが説明された。

（2）「第107回 薬剤師国家試験問題検討委員会報告」

東北医科薬科大学薬学部の小嶋先生より、2022年5月14日（土）オンライン会議として開催された第107回 薬剤師国家試験問題検討委員会にて各大学から出された意見を踏まえて議論された内容が紹介された。全体として実務に則した薬物療法を評価する能力、臨床での問題解決能力をはかる良問が出題されていることが確認された。一方で、誤りがあると判断された問題、問題の観点あるいは問題・選択肢の表現が不適切であると判断された問題、及び複合性が不適切であると判断された問題等が取り上げられていた。すでに第108回が終了している現時点において、第107回の出題内容も踏まえて今後開催される検討委員会にて第108回についての議論がより深まることが期待されるとのことであった。

（3）特別講演「薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂における薬学臨床教育が新たに目指すところとは」

例年話題提供として2題の講演が用意されていたが、今年度は直近に薬学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂を控えているということでその話題性の高さから特別講演として本内容に一本化して2演題分の時間を割いたものとして実施された。現在までの流れとしては、本改訂版（素案）に対して本会議の委員の先生方からご意見を募り、その内容を踏まえた上でパブコメとしてあらためて広くご意見が収集され、その後2月28日（火）付けで文部科学省より「薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）」が晴れて公開されるに至っている。次なるはこの改訂版に準じた実際

の教育を如何に実施していくかということが目標となるわけですが、今回ここにフォーカスして本改訂版の「F 臨床薬学」の項目を主に担当された鈴木先生より把握すべき多くの重要なポイントについて大変分かりやすくご説明いただいた。先生の臨床教育にかける熱い思いも相まって非常に活気ある雰囲気の中での講演であった。最大のポイントとしては、学内外の臨床教育において個別化に重きを置くことでそのセンスを鋭く磨くことがこの改訂版の一番の特色であることが繰り返し強調されていた。参加の先生方へもその旨はしっかりと周知されたものと思われた。なお、この度使用されたスライド資料については、未だ正式なものではなく、最終版の前段階という触れ込みでの解説であった。正式なものは、すでに薬学教育協議会より各大学宛に御案内がされている4月12日（水）のオンライン説明会にて配付されるとのことで、その内容をもって今回の講演で修得した知識を更に深めるといったところが今後の流れになることが確認された。今後この流れに則り各大学にて改訂に向けた詰め協議を学内にて活発化・加速化させていく必要性をおそらく参加の先生方は強く認識されたことと思われた。

(4) 次年度以降の開催について

今後の状況を鑑みながら、共同開催をベースに会議内容について十分に吟味を図りながら対面あるいはオンラインでの開催を判断していきたい旨が説明された。

次年度開催予定：日本薬学会第144年会の開催様式を踏まえ決定する予定。

次年度委員長：北陸大学 石川和宏

次年度副委員長：名城大学 野田幸裕

(5) 閉会の挨拶 北陸大学 石川和宏

以上